

日本超音波医学会第98回学術集会を終えて

会長 北野 雅之
(和歌山県立医科大学 第二内科)

1. はじめに

2025年5月30日（金）から6月1日（日）にわたり、国立京都国際会館にて、日本超音波医学会第98回学術集会を開催させていただきました。第98回学術集会は、世界超音波医学生物学学術連合第20回国際会議（WFUMB 2025）（秋山いわき会長）、日本乳腺甲状腺超音波医学会第2回春季大会（中島一毅会長）との共催で行い、Web参加を含め国内外から9,000名以上（表1）の方々にご参加いただき、2,600題以上の演題発表があり盛会裏に終えました。WFUMB 2025会長の秋山いわき先生（図1）のご尽力で、第2回（1979年宮崎）、第7回（1994年札幌）以来、31年ぶりにWFUMBが日本で誘致されました。このような記念すべき貴重な機会に、伝統ある本学術集会を開催させていただきましたことを、岩永史郎理事長、秋山いわき会長、役員、代議員、会員の皆様に感謝申し上げます。また、近畿大学消化器内科教授の工藤正俊先生が国立京都国際

会館にて主催された第83回・第89回学術集会にて事務局長を務めさせていただきましたが、同じ会場で学術集会を会長として主催させていただけましたことを大変光栄に存じます。

本学術集会の特徴として、Ultrasonic Week とし



図1 WFUMB2025会長の秋山いわき先生（WFUMB2025会長講演）

表1 参加者数（国・地域別）

| 国・地域 | 参加者数 | 国・地域 | 参加者数 | 国・地域 | 参加者数 |
|------------------------|-------|-------------|------|----------------------|------|
| 日本（招待者を含む） | 7,887 | India | 16 | Pakistan | 1 |
| 海外総計 | 1,340 | Indonesia | 3 | Panama | 3 |
| Albania | 2 | Iraq | 18 | Paraguay | 1 |
| Argentina | 1 | Ireland | 1 | Peru | 3 |
| Australia | 60 | Israel | 4 | Philippines | 10 |
| Austria | 2 | Italy | 9 | Poland | 7 |
| Bahrain | 2 | Kazakhstan | 2 | Portugal | 1 |
| Bangladesh | 4 | Kenya | 4 | Reunion | 1 |
| Bosnia and Herzegovina | 3 | South Korea | 101 | Romania | 22 |
| Brazil | 9 | Kuwait | 1 | Russian | 35 |
| Cameroon | 1 | Kyrgyzstan | 1 | Saudi Arabia | 2 |
| Canada | 9 | Latvia | 7 | Singapore | 22 |
| China | 672 | Lebanon | 2 | Slovenia | 4 |
| Chinese Taipei | 64 | Liberia | 1 | Sweden | 1 |
| Croatia | 3 | Macao China | 1 | Switzerland | 4 |
| Denmark | 15 | Malaysia | 2 | Thailand | 22 |
| Egypt | 1 | Malta | 1 | Turkey | 11 |
| Finland | 1 | Mexico | 1 | Ukraine | 16 |
| France | 2 | Moldova | 2 | United Arab Emirates | 2 |
| Georgia | 3 | Mongolia | 11 | United Kingdom | 11 |
| Germany | 11 | Netherlands | 4 | United States | 40 |
| Greece | 2 | New Zealand | 32 | Uruguay | 1 |
| Hong Kong China | 8 | Norway | 3 | Venezuela | 1 |
| Iceland | 2 | Oman | 5 | Viet Nam | 10 |

図2 WFUMB2025と日本超音波医学会第98回学術集会のポスター。2つのポスターが合わさってひとつの絵になるようデザインされました



て完全な共同開催として実施したため、本学術集会参加者の全員が日本語セッションのみならずWFUMB 2025の英語セッションにも自由に聴講できることです。ポスターも両方が合わさって、ひとつの絵になるよう作成しております（図2）。会員の先生方にとりまして、世界のオピニオンリーダーの講演を聴講、英語で発表・討議したうえで、親睦を深める国際交流の機会にもなったのではと考えております。

2. 第98回学術集会

第98回学術集会では、「超音波医学の深化と展開、そして伝承」をメインテーマとし、74名の組織委員・プログラム委員の先生方（表2）に大変興味深いプログラムを編成していただきました。我が国で築き上げられてきた超音波医学のTechnology、診断精度の研究開発をさらに発展させる「深化」、超音波診療の対象疾患・臓器が拡大し、POCUS、タスクシフト、市民への啓発等、様々な領域へ展開する「展開」、医学部教育、あるいは超音波専門医、超音波検査士、工学フェローの育成を通じて次世代へ伝承し、超音波医学会が将来にわたって発展する「伝承」に繋がる多種多様なセッションが構成され、口演・ポスター・ハンズオンを合わせて19会場で、日本語・英語での活発な発表・討議をいただきました。

特に、「伝承」に注力した多くのセッションを企

画しました。「タスクシフト」など検査士を対象としたセッションもあり、多数の方が聴講されておりました。また、ポスターセッションでは、広いポスター会場で多くの参加者の活発な討議が行われました（図3）。第97回学術集会より開始されました「Early Career 部会 領域横断エコリンピック」では、24名の若手の医師がコンペ形式で「私の自慢の超音波画像」を発表し、3名の優秀な若手超音波医が受賞しました。将来超音波医学会を担う若手医師のモチベーションを高め、領域を超えた交流促進に繋がるセッションとなりました（図4）。また、ハンズオンセミナーを8コース開催いたしましたが、若手医師・検査士が英語で受講する貴重な機会となりました。必修講習会は資格更新には必須となっておりますが、必修講習会では1,800名を収容できる第1会場がほぼ満席となりましたことには驚きました（図5）。

和歌山県立医科大学からも学生7名・研修医6名が参加し、様々なベーシックなセッションに参加できるとともに、日本でこのような国際交流が行われていることに触発され、将来超音波医を目指したいという学生もいました（図6）。最終日に開催された市民公開講座では、「病気はどのようにして見つかるの？—超音波検査の役割—」というテーマで、消化器、循環器、産婦人科、腎・泌尿器における超音波検査の役割をそれぞれの領域のエキスパートにご講演いただきました（図7）。京都府民を中心と

表2 組織委員・プログラム委員（敬称略）

| 組織委員 | | プログラム委員 | | | |
|-----------|--|---------|---|--------|--|
| 顧問 | 工藤正俊 | 消化器 | ○北野雅之 小川眞広 丸山紀史 畠二郎 日浅陽一 廣岡芳樹 南康範 祖父尼淳 黒田英克 長沼裕子 西村貴士 | 腎・泌尿器 | ○陣崎雅弘 浮村理 皆川倫範 小路直 |
| WFUMB 会長 | 秋山いわき | 産婦人科 | ○山本祐華 菊池昭彦 市塚清健 小澤克典 田嶋敦 花岡有為子 | 運動器 | ○後藤英之 藤原憲太 皆川洋至 中瀬順介 中島祐子 宮武和馬 面谷透 渡辺千聰 |
| JSUM 会長 | 北野雅之 | | | | |
| JSUM 理事長 | 岩永史郎 | | | | |
| JSUM 副理事長 | 小川眞広 | | | | |
| JSUM 副理事長 | 長谷川英之 | | | | |
| | 瀬尾由広 | | | | |
| | 菊池昭彦 | | | | |
| | 陣崎雅弘 | | | | |
| | 古川まどか | | | | |
| | 明石定子 | | | | |
| | 岡庭信司 | | | | |
| | 斎藤こずえ | | | | |
| 事務局長 | 西田睦 | | | | |
| | 蘆田玲子 | | | | |
| プログラム委員 | | | | | |
| 基礎 | ○長谷川英之 山口匡 新田尚隆 舛田晃司 吉澤晋 | 甲状腺 | ○古川まどか 福島光浩 福原隆宏 | 脳神経・血管 | ○斎藤こずえ 竹川英宏 濱口浩敏 小谷敦志 佐藤和奏 西上和宏 萩原悠太 |
| 循環器 | ○岩永史郎 石津智子 村田光繁 土肥薰 楠瀬賢也 泉知里 湯田聰 岡本浩嗣 | 乳腺 | ○明石定子 久保田一徳 中島一毅 | 総合・検診 | ○岡庭信司 松本直樹 |
| 小児科 | ○増谷聰 吉元和彦 河野達夫 | 皮膚 | ○正畠千夏 | 検査士 | ○西田睦 水上尚子 |
| | | | | | |

○：領域委員長

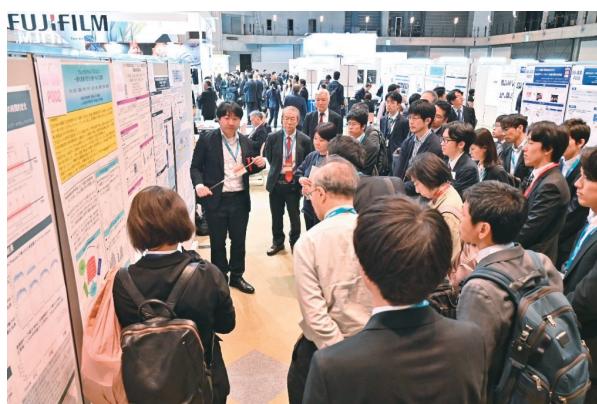


図3 ポスター会場。広いポスター会場に多くの参加者が集い活発な討議が行われました



図4 エコリンピックの発表者、司会、コメントーターとEarly Career部会委員



図5 必修講習会会場。約1,800名収容の第1会場がほぼ満席となりました



図7 市民公開講座。多領域の疾患に関する講演が行われ、160名の市民に聴講いただくことができました



図6 和歌山県立医科大学から参加した研修医・学生

して積極的にアナウンスした結果、160名の市民にご聴講いただき、医療において超音波検査が汎用されていることを理解していただく機会となりました。様々な病気について知ることができる点に魅力があり、多くの市民にご参加いただけたのではと思っております。

3. WFUMB 2025

第98回学術集会の会期は前述の3日間でしたが、WFUMB 2025は一日早い5月29日（木）から開催されましたので、合計4日間の開催となりました。国内外からの多く方に参加いただきましたが、海外からは70カ国からご参加いただきました（表1）。WFUMB 2025は、IFMSA（International Federation of Medical Students' Associations）、WFPI（World Federation of Pediatric Imaging）、SRU（Society of Radiologists in Ultrasound）、ACUCI（Asian Conference on Ultrasound Contrast Imaging）、ICUS（International Contrast Ultrasound Society）、ISUOG

（International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology）等の国際学会等と共にセッションも構成され、複雑なプログラムを編成することとなりましたが、組織委員・プログラム委員の先生方（表2）にご尽力いただいたおかげで、領域ごとでHot Topicにフォーカスを当てて、ユニークな英語セッションを構成することができました。教育セッションでは、日本語のみならず世界のオピニオンリーダーによる英語での講演を拝聴する貴重な機会となりました（図8）。一方で、英語の一般演題口演においては、司会・演者が登壇されないセッションがありました。WFUMB 2023では一般演題を口演で行われていなかつたため、事務局として発表者に十分に周知するべきであったとして反省しております。

4. ファイヤーサイドトーク

5月31日に京都国際会館の庭園にて、参加者の親睦・情報交換を目的としたファイヤーサイドトークを開催しました。屋外での開催のため、天候は非常に重要でした。前日までの予報では雨の可能性が高かったのですが、幸いにして雨は降らず、多くの参加者に広い庭園で親睦を深めていただくことができました（ファイヤーサイド終了後に雨が降りました）。多種多様の和歌山・京都の日本酒を皆様に楽しんでいただくことができました。和歌山の有田川流域で生産されている幻の地酒「龍神丸」は生産量が少ないため通常のルートでは手に入れにくいのですが、本ファイヤーサイドトークのために手に入ることができ好評でした。庭園の池の中央で、秋山WFUMB会長、Condous WFUMB理事長、岩永理事長、飯島前理事長、椎名元理事長と私がスピーチ



図 8 WFUM 2025 Faculty. 世界中から超音波のオピニオンリーダーが集い、最先端の講演



図 9 ファイヤーサイドトークにおける鏡開き：左から椎名元理事長、岩永理事長、秋山WFUMB会長、私、飯島前理事長、Condous WFUMB理事長



図 10 岩永史郎理事長のスピーチ

とともに鏡開きを行い、1,000名以上の参加者が一体化していました（図 9-13）。4名のミス着物（図14）にも協力いただき、海外の先生にとりまして日本の伝統文化に触れる機会を提供しましたが、国内外問わず多くの皆様が写真撮影を求めておられました。これまでファイヤーサイドトークでは、途中に



図 11 WFUMB 理事長の George Condous 先生のスピーチ



図 12 ファイヤーサイドトークにおいて岩永史郎理事長と私

様々なエンターテイメントが行われることが多かつたのですが、今回は多くの参加者が屋外で集うため、ファイヤーサイドトークの直前に別会場（第1会場）で、世界的フルート奏者である大塚茜様にミニコンサートを行っていただいた後にファイヤーサイドトークに移動していただきました。このミニコンサートでは、広い第1会場で国内外からの多くの参加者が素晴らしいフルートの音色に魅了されていま



図 13 ファイヤーサイドトークの風景。広い庭園に多くの参加者が参加し、国際的な親睦の機会となりました



図 14 ミス着物。京都のミス着物の方々にもご協力いただき、華やかな懇親の場となりました

した。

5. おわりに

第 98 回学術集会が成功裏に終わりましたのは、組織委員・プログラム委員の先生方に興味深いプログラムを構成いただき、多くの会員の皆様にご参加・ご発表いただいたおかげです。9,000 名以上参加していただいたことで海外の参加の先生から「World



図 15 和歌山県立医科大学・同志社大学の運営スタッフ



図 16 閉会式での第 99 回学術集会会長の古川まどか先生による第 99 回のご案内

record」と称賛いただいたことを大変嬉しく思っております。最後に、和歌山県立医科大学・同志社大学の教室員・秘書の皆様（図 15）、運営事務局の皆様が全力で本学術集会のサポートをいただきましたことに感謝申し上げます。来年、古川まどか会長（図 16）が東京で主催されます第 99 回学術集会で皆様と再会することを心待ちにしております。